

議題1 大正区将来ビジョン2025の改訂について

【当日出された意見等】						
	テーマ	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
1	人口	人口は劇的に増えているが、町会費を払ってくれない单身の方が増えており必ずしも喜ばしくないという意見もある。若年層や子育て世代がどんどん移住してくるために、町の魅力を高めたい	土井委員	＜古川区長＞ 人口の問題について、どこを重点的にやるか、大正区長としてはなかなか施策がしにくく、どうしても駅の近くから単身者で埋まっていく傾向があるので、三軒家東が抱えている単身者あるいは社宅が多いという問題についてもよく理解してるつもりではありません。 ただし、駅周辺は人口が維持できるだけありがたく、南のほうではどのように活性化していくかというのが引き続き大きな問題だと思っております。 土地の売却を機に活用の起爆剤になると思いますが、現在、大阪港湾局が売却にかけようとしている土地もありますので、その行方も見ながら、しっかりまちづくりをやっていききたいと思っております。 また、千島公園を軸に、例えば昭和山の山頂のカフェは面白い発想でしたが、採算が合うなら進出する事業者はいると思います。ただし、残念ながら、千島公園そのものが民間事業者に任せて何かやってみようという対象にまだなっていないんです。例えば、天王寺のてんしばなどは民間ベースでほとんど画期的なことをやっておりますが、まだ中規模の公園の中で千島公園はそういう対象にはなっていないので、これから民間活力を使った公園の活性化も、私どもが建設局に声をかけながらやっていきたいと思った次第です。	回答済み	総務課 （庶務） 地域協働課 （地域協働）
2	人口	町会費を払っていないから増えてほしくないとは全く思っていない。三軒家東は人口が増えて皆さんから羨ましく思われているが、実際は単身赴任の方や20代、30代の若い方など、「町会は無関係ない」という方が増えている。欲な話だが、大正区全体を家族ぐるみで人情あふれるまちにしてほしい。 千島公園の山頂に他区からも人が集まるような常時のカフェを造ったり、大きい病院を持ってくるなど、突拍子もないような大きいことを考えていかないと絶対に人は集まらないと思う。	堀江委員			
3	交通 インフラ	特に43号線から南のほうについて、交通インフラが市バスのみで整備できていないということが人口減少につながっている印象がある。若い世代や子育て世代に南のほうに来てもらおうと思うと、やはり最寄り駅が遠いということがとても大きい。 いろいろな問題があることは重々承知しているが、どうしようかと留まっていたらまちも止まってしまう。皆で何ができるのか知恵を絞っていただろうと思う。	山崎委員		交通インフラにつきましては、大正区にとって非常に大きな課題と認識しております。現在のところ大正区の南側地域の利便性を向上させるための具体的な案はございませんが、いろいろな可能性を探っていけたらと考えています。 区民の皆様からご提案等がございましたら遠慮なくお聞かせいただけますとありがたく存じます。	総務課 （庶務）
4	交通 インフラ	以前テレビで、簡易にできるモノレールを造って販売するシステムを作っている会社を見た。今までにはない乗り物が設置できたら南のほうも活性化するのではと思う。	藤田委員	＜古川区長＞ 新たなモビリティのような今までにない乗り物が大阪市に導入される機会があれば、大正区は真っ先に手を挙げようと思っていました。大正区は平坦で道が広く、大正通を軸としてきちっと道路が整備されているので、タクシーの運転手にも「こんな走りやすいまちはない」と言われるほど大阪市内の中でも走りやすいです。 政府の規制緩和が進んだ場合は、ぜひ自動運転特区のような形で大正区は名乗りを上げていくべきだと思っておりますが、まだ自動運転の車両の機能がそこまで至っておらず、事業自体が公募等になっておりません。先進特区として名乗りを上げるような機会があれば、それを機に活性化を進めていったらいいのではと腹案として持っています。	回答済み	総務課 （庶務）
5	将来 ビジョン	将来ビジョンについて、区政会議委員を2期務めているが初めて見た時とさほど印象が変わらない。行政やまちが抱える課題は分かる反面、劇的に変化するのはとても難しく、民間でも何か動いていかないといけないという印象を受けた。	土井委員		現在の大正区将来ビジョンにつきましては2025年度までのものであるため、今後2026年度以降の大正区将来ビジョンを策定する必要がございます。委員ご指摘のとおり、大正区が抱える課題を劇的に変化させることは難しいと認識しておりますが、区民の皆様が大正区に暮らすことで心が豊かになり、幸せを感じることができるようになるよう、努めてまいります。また、そのためにもお力添えをいただけますと幸いです。	総務課 （庶務）

議題1 大正区将来ビジョン2025の改訂について

【当日出された意見等】						
	テーマ	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
6	将来 ビジョン	将来ビジョン2025（案）はいつまで有効なのか。4月から区長が替わるが、次の区長はこのまま引き継ぐしかないのか。	南委員	＜大津区政企画担当課長＞ 大正区将来ビジョンは2023年度に今後3年間で大正区をどのようにしていきたいかという考えをまとめたもので、2025年度がその計画内容を達成するための目標年度となっています。そのため「大正区将来ビジョン2025」という名称にしています。2023年に策定してから課題や取り組んできた結果、達成したところや至らないところなどいろいろ出てきますので、1年ごとに改訂をしていっているところです。次は2025年4月1日に改訂をいたしますので、今のところまだ「（案）」が付いており、4月1日に「（案）」が取れるということです。 ＜古川区長＞ 大阪市のビジョンのつくり方は、基本的には前の区長のものを一回引き継ぐ時期があります。これまで引き継ぐ時期があまりにも長過ぎて、私が着任してから2年間、前の区長の施策をやっていましたが、それはあまり良くないだろうということで、今回は私の任期に合わせて2025年でいったん切るという案をつくっています。なので、長期ビジョンではなくて中期ビジョンの3年計画になっております。 つくった時の最終年がビジョンの名前になっており、2023年につくった2025年までのビジョンということです。新しい区長が着任したら、また1年後までにこの改訂を行っていくというスケジュールになりますのでご理解いただければと思います。	回答済み	総務課 （庶務）
7	将来 ビジョン	大正区として、例えば2030年、2040年にはどのような状況に持っていきたいのかということ、誰がどのように話し合うのか。 前の区長の方針を引き継いで、新しい区長の色を出していくということが繰り返されていくと、3～4年周期になってしまい、5年、10年、20年というところがぶれてしまう可能性があるのでは、どこかに柱があったらいいと思う。	藤田委員	＜古川区長＞ 将来を見据えた形で構想をどうやってつくっていくか、確かにそういうご疑問もあると思います。本来は区政会議の場でいろいろ聞いていきたいのですが、データに基づく具体の施策というより、どうしても個人の思いを語る場になってしまい限界があるので、きちんとテーマを絞ったような形でご議論いただく、あるいは場合によっては外部の意見やコンサルティングを受けながら行っていくことも必要なのかと拝聴した次第です。	回答済み	総務課 （庶務）
8	会議運営	3年間改訂を繰り返した将来ビジョンに対して、全体的に何か質問はないと言われても、何を質問していいかわからない。 一方的に資料をもらって、当日に莫大な量の資料の中からそれぞれ質問してくださいという質問形式が合っているのか問題提起したい。 港区では部会制で分けて行うなど、いろいろなやり方がある。今後の在り方として、このラリーのやり方を変えていくというのも一つの手かと思う。	南委員	＜大津区政企画担当課長＞ ビジョンや運営方針、予算につきましては、区政会議委員の皆さまから必ずご意見を頂くことになっている事項になっていますので、議題2にあげさせていただくということをご理解いただければと思います。 区政会議の在り方につきまして、おっしゃるようないろいろなやり方があると思いますので、他区の事例も参考にしながら考えていきたいと思っています。	回答済み	総務課 （庶務）

議題1 大正区将来ビジョン2025の改訂について

【当日出された意見等】						
	テーマ	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
9	町会	大正区は大阪市内で一番犯罪件数が少なく、とてもいい地域だと読み取れるが、他の地域の方からすると昔からのイメージが悪いことがとても残念に思う。 区政会議委員になり、いろいろな方と親しくさせていただく中で、地域コミュニティがしっかりあるから犯罪件数が少ないということが感じられる。 工業会でももう少し何かできることがあるのではないかと普段から思っている。例えば、大正工業会の青年部会とは、町会に企業がもう少し参加してもいいのではと話しており、われわれもこれからもっと考えていくべきだと思う。	木幡委員	＜古川区長＞ 大正区はイメージが悪いのではないかというのは、私も他のまちで言われました。柄が悪いと思っている人がいまだにいて、30年ぐらい前の記憶が残っているんじゃないかと思います。イメージがどうこうという部分は、まちの活性化施策の中で払拭してまいりますので、そこはご安心いただきたいです。百聞は一見に如かずで、大正区を訪れていただくことが一番重要で、本当に温かく、人と人がいい距離感で過ごしていますし、何より優しいということが、少し過ごしていただくことで伝わると思います。 泉尾にあるヨリドコでは、非常に大正区の良い部分を生かして活動されてると思っています。私もマルシェに頻繁に顔を出していますが、そこに集う人たちが人の良さをしっかり出してくださっており、福祉をやっている方やカフェ、弁当屋をやっている方等が集っています。また、福祉の拠点として「ヨリドコるつぽん」というのも新しく出来上がりました。何かやってみたい人と人がうまくつながる場所です。 そういうつながる場所があるということも含めて、ぜひ一度、大正区に遊びにきてもらい、大正区は事業の場としても住む場所としても非常にいいのではないかと選択肢の一つに挙げてもらえるように、今までエリア価値向上事業を行ってきました。見かけ上はマルシェやまち歩きを行っていましたが、本当の狙いはそういうところにあります。大正区を見て体験していただければ、きっと気に入って人口が増えるだろうと確信を持って区長としてやってきました。後任の区長もその分野が得意ですので、引き続きしっかりやってもらおうと思っております。 また、企業が町会に入っていくというのは本当にありがたいことだと思うので、工業会あるいは若葉会からもぜひブッシュをお願いします。	回答済み	地域協働課 (地域協働)
10	こども	犯罪件数が少ないのに虐待のようなことが多いことが疑問なので、その辺について説明いただきたい。	木幡委員		大正区では、児童（18歳未満）人口における児童虐待相談の割合は18歳未満の人口割合で1.1％と大阪市平均（0.54％）の2倍の高い水準となっています。支援が必要な子育て世帯が多いことから相談件数も多く、相談を通じ児童虐待を発見するケースも多いです。このような状況を踏まえ、今後も保育施設・学校等へのアウトリーチを行い、関係機関と連携し、早期対応・早期支援につながるよう児童虐待の未然防止を図り、重大な虐待ゼロをめざし、妊娠期から中学生までの切れ目ない支援（大正区版ネウボウ）を実施してまいります。	保健福祉課 (こども・教育)
11	その他	以前勤めていた他市の特別養護老人ホームでは、面会に来られる人があまりいなかったが、鶴町の施設では長期入居者の半数の方が、毎日のご家族が面会に来られる。その関係性の厚みにとても感動して、これが大正区なのかと感じた。 人間関係の豊かさというものが大正区の宝だと思うので、それをどう引き伸ばしていくか考えていきたい。	藤田委員	＜古川区長＞ 大正区の人々の良さ、人の豊かさについて、私も4年間住んでみて、本当にそのとおりだと思いますし、このまちを離れたくないと思います。人の豊かさというのは、貧困やお金持ちとかそういうレベルではないんです。風土としてこのまちに培われてきた優しさのようなものなので、一朝一夕に変えられないと思います。このまちがこれだけ優しいまちになったことは、住民の皆さまは誇るべきだと思うし、私たち役所はそれを外に向かってアピールして、人口を増やすという観点からも、ぜひ大正区の一員になってみませんか、一緒に住んでこのまちを創っていきませんかとPRに努めなければいけないと実感した次第です。	回答済み	総務課 (庶務)

議題2 令和7年度大正区運営方針（案）および予算（案）、事業・業務計画書（案）について

【当日出された意見等】						
	テーマ	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
12	予算	区CM自由経費の事業実施選択余地のある予算について、住民が増えれば増えるほど自由に使える余地のある予算も増えていくような立て付けなのか。	土井委員	＜嶋原総務課長＞ CM予算は確かに人口割のところがありますので、大正区は少し厳しい状況もあるかと考えております。	区CM自由経費全体の中には、人口の増減が予算額に影響する事業も含まれています。	総務課 （庶務）
13	予算	昨年より予算が6,000万円増えているが、この予算はどう決まるのか。大正区の人口がそれだけ増えたということなのか、大阪市の税収が増えたということなのか。また、その割り振りがどうやって決まるのか知りたい。	南委員	＜北吉副区長＞ 区長自由経費について、大きく増えてところで庁舎管理・事務費が約1億6,700万円から約1億9,200万円に増えていますが、その中には国の森林環境譲与税を活用した予算で確保した国産木材を活用したフロア整備事業が含まれています。予算の増額はこの国の森林環境譲与税を活用した予算を確保しにいった結果です。 ＜古川区長＞ 腕の見せどころで成果が出たということです。何もないところから引っ張ってきたという意味で3,000万円増えています。 区CM経費については、公園整備などで維持管理よりも整備のほうがお金がかかりますので、整備の順番に当たった年はぐんと増えるということで、たまたまの要素があります。なので、腕を見せたところとたまたまの合わせ技です。	昨年度より増加した予算額、約6,000万円のうち、区長自由経費の増加分、約3,000万円については、区役所2階窓口フロア整備事業を実施するために区が要望した結果、予算額を確保できたことが大きな要因です。 また、区CM自由経費の増加分、約3,000万円については、区内の公園整備を行う年度ということで増えているのが一番大きな要因です。	総務課 （庶務）
14	公園整備	公園施設整備について、樹木の剪定や遊具の改善など、具体的にどのようなことに使われているのか。 また、重点的にどの公園を行うのか決まっているのか。	土井委員	＜嶋原総務課長＞ 公園内の整備については、公園内の道路や設備面の整備が予定されています。樹木の剪定は定例のところでは何かあればもちろん対応していただいているとは思いますが。今回は全体の整備が当たる年になっています。 ＜大津区政企画担当課長＞ 公園リフレッシュの具体的な内容については、小林公園の園路を現在、土舗装になってるところをアルファルト舗装にすると聞いており、ここが大きく金額が増えている要素になっています。どこを整備するかというのは、局から毎年区長に説明があり、承諾を得たところから行っていく形になっております。	回答済み	総務課 （庶務）
15	公園整備	大正区PTA協議会では毎月、ジョギングやランニング、ウォーキングをしながら大正区中の公園を回りごみ拾いをするプロギングという事業をしている。建設局からも、市内に展開していきたいのでモデルにという話を頂いており、ごみ袋の支援をしていただいている。 ごみ袋の支援はとてありがたく頂戴しているが、軍手やトング等いろいろな物資が足りない状況で、できれば助成していただきたい。 また、ごみを拾っても翌日には家庭ごみが落ちていることがある。「防犯カメラで監視しています」という看板やごみ箱を設置すると意識も変わってくると思うので、その辺も考慮していただきたい。	山崎委員	＜大津区政企画担当課長＞ モデル事業として受け入れていただきありがとうございます。 公園のにぎわいづくりとともに維持管理の担い手を増やしたいということから、令和7年度からはPTA協議会が行っているプロギングをモデル事業、24区の代表事例のひとつとして始めることになり、今後は全区展開も考えております。おっしゃられたごみ袋は建設局から頂いているのですが、軍手やトングにつきましては、即答はできませんが、防犯カメラの表示やごみ箱の設置とあわせまして建設局と話をさせていただきます。 ＜古川区長＞ プロギングは本当にありがたく、24区の代表事例として、モデル事業のような形で区長会議でも発表させていただきました。ごみ袋だけなのかということについては、実態的に一番助かるところに手が届くよう、工夫できるように考えたいと思います。	いただきましたご要望につきましては、今後プロギングの全区展開を図るうえでの課題として、建設局と協議を行ってまいります。	総務課 （庶務）

議題2 令和7年度大正区運営方針（案）および予算（案）、事業・業務計画書（案）について

【当日出された意見等】						
	テーマ	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
16	公園整備	千島公園にあるトイレが1つ壊れたまま、もう半年経つ。ごみを拾うよりも、そういうことを整理するほうが先だと思う。根本的なことをもっと早く対処して、美しい町をつくらないといけない。	堀江委員	＜古川区長＞ トイレを改修するための設計等に人手が足りず、常に順番待ちの状態になってるということです。誰かがさぼっているということではなく、あるいは予算が1円もないということではないですが、まず、どの公園のどの部分から着手するかという順番待ち状態であるために時間がかかるというのが現状です。公園の運用の仕方として、できることは工夫していきたいと思っています。 公園も皆さんが一生懸命使っていただき、あるいは掃除していただいても草が生えていると、やはり綺麗になった感がないですね。その辺も含め、予算が優先的に回ってくるよう前倒しすることは通用しないのですが、少しずつ工夫の声が届くよう、住民の皆さんもやってくれるのだから役所ももう少し頑張ろうという論点を提示していきたいと思います。	回答済み	総務課 （庶務）
17	公園整備	鶴町公園の雑草を何とかしてほしいが、八幡屋公園事務所などいろいろな組織があり、なかなか難しい。現在は綺麗になっているので、それを持続できるよう区役所でも検討してほしい。	松村委員			

議題2 令和7年度大正区運営方針（案）および予算（案）、事業・業務計画書（案）について

【当日出された意見等】

	テーマ	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
18	こども食堂	高校生が家でご飯をしっかり食べていないという実情について教頭先生から相談があり、昨年から大正白稜高校でおにぎりプロジェクトを行っている。国からの助成金を活用しているが、食材配布するのにもお金がかかり、持続するのも難しいと感じる。 また、小学校の児童たちの欠食問題も大きな問題になってると聞いた。以前西区で、登校するこどもたちに朝ご飯を提供していたが、朝ご飯を学校で提供することで遅刻が減ったり、勉強の集中力が上がったという話を聞き、食の問題はとても大きいと感じる。 このような活動に対する資金について、こどもサポートネットや学習・登校サポート事業から出すことはできないのか。	姉川委員	<前田こども・教育担当課長> こども食堂やこどもの居場所づくりに関しては補助制度があります。大阪市では、本市が必要とする地域にこども食堂などを開設する場合について「こどもの居場所開設支援事業補助金」があります。補助金の対象につきましては、例えば、現在、小学校区の中で居場所が開設されていない校区が対象となっております。 大阪市社会福祉協議会には「こども支援ネットワーク」の制度があります。こども食堂を開設する場合、このネットワークに参加することによって、例えば、万一の事故に対応した保険料や物資等の提供があります。 また、大阪市社会福祉協議会には「大阪市ボランティア活動振興基金助成」もあり、こども食堂などを開設する際の補助制度があります。 大正区の予算の中でこども食堂に柔軟にお金を使うことができないのかということについて、学習・登校サポート事業は貧困対策ならびに不登校対策として実施しております。予算約1,900万の内訳として、大阪市のこどもサポートネット事業で課題のある児童生徒を対象に、学習や登校支援、居場所支援を実施しています。これらの事業にかかる人件費となりますので、自由に使える予算ではありません。 大正区の中でこども食堂をされている校区もあります。例えば、朝食の欠食対策として、小林小学校で現在、月1回、「つつじ食堂」においてパンとジュースを提供しています。この財源については団体から提供していただいています。他の校区では、宿題カフェ等のこども食堂をされている場合もあり、その財源については、地域まちづくり実行委員会が主体となって地域活動協議会補助金を使っているところもあります。このように各地域の中で判断していただく部分もありますので、そこは柔軟に対応できるのではないかと思います。 <古川区長> こども食堂については、大阪市全体として各地域に1カ所ぐらいあってよいのではということで、地域ごとに1カ所開設しようとかども青少年局が構想しております。区のほうに1カ所ずつつくるよう急かされるのですが、一番肝心なのは担い手がないことです。小林のように女性会や地域の方が総がかりで、月1、2回、覚悟を決めて取り組んでいるところは、それが習慣化しているから何とかできているということです。 例えば食材は、どこかで不要になった食材が届くフードドライブを社会福祉協議会やコンビニが行っているので、食材だけをかき集めてくることはできます。それに対して地域の会館などの場所を提供する、ここまではできます。しかし、担い手がなかなかいない。担い手さえいれば、週1回ぐらいどこかで開催する潜在能力をわが国は持っていると思います。やはり人件費が一番高いので、その部分を委託してプロに任せるとことは実現不可能なんだろうと思っています。 結局、その活弁な地域活動と食材・資材が相まって、たまたまできているところが現在うまくいっているというのが現状で、それを全ての地域で担い手の発掘から全て行うのは厳しいと思っています。 また、こども食堂を開設するにあたっての大阪市の補助金は実際にありますが、それはイニシャルコストです。開設するにあたって厨房機器を購入したり、カウンターを改修するものに対してはお金が出ますが、維持運営していくお金はきりがないので役所は投入しないです。やはり維持運営のための肝は人件費で、担い手をどうするかになると思います。	区政会議においてもご説明させていただきましたが、こども食堂などを開設する場合には様々な補助制度があり、そのひとつである「大阪市こどもの居場所開設支援事業補助金」については、これまでこどもの居場所がない校区を補助対象としていたところ、令和7年度からは従来の条件に加え、「すでにこどもの居場所がある小学校区であるものの、対象を中学生のみと限定していたり、開催頻度が不定期など少ない居場所であるため、利用したいこどもが利用できない状況があると思われる校区」が追加されるなど募集校区の条件が変更となっております。これに伴い、大正区においても現時点において、こどもの居場所があるものの、開催頻度が少ない校区については新たに補助対象としていく予定です。 また、現在大正区では10地域中8地域において、地域の方々が主体的にこどもの居場所として「こども食堂」などを開設されております（三軒家西、泉尾東、中泉尾、北恩加島、小林、平尾、南恩加島、鶴町）。主に地域の会館等を利用して、地域の小学生・中学生を対象に朝食を提供したり、また、昼食とあわせて自由に学習や遊びの場を提供するといった活動をされております。区役所としましても、全地域にこども食堂などの居場所が開設されるよう、区社会福祉協議会と連携を図りながら、地域に必要な情報を提供するなど引き続きサポートを行ってまいります。	保健福祉課 （こども・教育）

議題2 令和7年度大正区運営方針（案）および予算（案）、事業・業務計画書（案）について

【当日出された意見等】						
	テーマ	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
19	こども食堂	小林のつつじ食堂では、児童たちにパンとジュースを月1回配っている。下校時に、1年から6年生の教室に女性会、民生委員、PTAの方が持っていき、「明日の朝召し上がって」と1人ずつ渡している。大正区ライオンズクラブに援助していただいており、とても助かっている。	姥委員	(18と同様)	(18と同様)	保健福祉課 (こども・教育)
20	こども食堂	こどもに費用をかけないご時世になっていることが根本的にいけないと思う。 小林小学校だけでなく、やるんだったら大正区全体で月1回そのような日を作るなど、根本的に何かしないといけない。 また、費用的に難しい話だが、月1回で喜んでもらえるのか。月1、2回して広報紙に掲載され、この地域はよくやっているという満足感だけでやっていたら反対にいけないと思う。	堀江委員			
21	学校統合	令和10年度に小林小学校が統合されることについて、小学校は防災の拠点として切っても切れない。もし統合が決まった場合、小林小学校の防災拠点と備蓄はどうなるのか。統合が決まり誰もいなくなった場合、建物の風化が早くなるので設備や建物の強度も気になる。	山崎委員	<北吉副区長> 学校の統合が教育委員会で議決され、跡地になる学校をどうしていくのかということについては、これから市の計画調整局や契約管財局などと調整をしていくことになります。12月に地域で説明会をさせていただいた時の資料には、防災の拠点として必要であれば跡地活用検討会議を立ち上げて議論を行い、防災の拠点として必要がないとなれば売却というフロー図を付けていましたが、区としては防災の拠点として活用が必要という考え方で、これから局と協議をしていく段階になります。 防災の拠点として必要となった時に、こういった土地活用をしていくのかということについては、また検討会議の中でご意見などもお聞きしながら議論していく予定です。	回答済み	地域協働課 (防災防犯) 保健福祉課 (こども・教育)